

【国語】 <中学校 第1学年>

1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」について、話の内容や、話し手の工夫を正しく聞く力をみる問題の正答率が80%を上回っている。
- 「書くこと」について、資料から分かることを主語・述語の整った文で書く力や、資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由を決められた字数で書く力をみる問題では、正答率が60%程度である。
- 「読むこと」について、文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解しながら読む力や、物語の展開に注意して場面の状況を正しく理解しながら読む力をみる問題では、正答率が90%を上回っている。
- 文章における語句の意味を正しく理解しながら読む力をみる問題の正答率が60%を下回っている。
- 「言語事項」について、中学校第1学年までに学習した漢字を正しく読む力や、文の意味を考えて正しい修飾語を使う力をみる問題等、多くの問題の正答率が90%を上回っている。
- 同音異義語の言葉を正しく使う力や、漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

2 結果の分析

(1) 話し手の説明の工夫を正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> ㊦ の四

[場面B]での鈴木さんの学校紹介の話のよさとして、最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

- ア 新入生たちの気持ちを紹介する話の構成のよさ。
- イ 生徒会活動を紹介した視聴覚資料の提示のよさ。
- ウ 事前に上級生にインタビューしておく取材のよさ。
- エ 自分の生活体験を交えて具体的に話す内容のよさ。

<結果> 正答率 88.5%（正答…エ）

<分析>

この設問は、新入生に中学校生活のことをよく分かってほしいと考えた「生徒会副会長の鈴木さん」が、教科担任制について、具体的な自分の生活体験を交えて話すという説明のよさを聞く力をみる問題である。[場面B]から、鈴木さんが中学校での経験を例に挙げて、教科担任制のよさを紹介していることを聞き取ることができたと考えられる。この結果から、昨年度と同様に、話し手が自分の考えや気持ちを的確に話すために、話題を具体化するなど、工夫していることを聞く力は身に付いているといえる。

(2) 資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち、決められた字数で書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> ㊦ の二

「日本人の日本語能力が低下している」という意見について、あなたの考えを書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなたの考えを、第二段落ではそのように考えた理由を具体的な例や体験を交えて書きなさい。

なお、右のグラフの各項目のうち、自分が必要だと思うものを取り上げて用いてもよいこととする。ただし、次の（条件）に従うこと。

（条件）

- ①題名や氏名は書かないこと。
- ②書き出しや段落の初めは一字下げること。

③解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書くこと。

＜結果＞ 正答率 57.9%（正答…略）

＜分析＞

この設問は、指定された条件に従って、自分の考えを明確にし、その理由を具体例や体験を交えて書く力をみる問題である。正答率が60%を下回り、昨年度の類似問題の正答率64.9%より低い結果となっている。これは、昨年度の出題がAかBかの立場を選択するものであったのに対し、本年度の出題が立場を自分で決めなければならないものであり、難しかったためと考えられる。誤答には、第一段落に自分の考えが示されていないもの、根拠の中に具体例や体験がなく考えばかりが記述されているもの、二段落構成で書かれていないもの等があった。この結果から、昨年度に引き続き、伝えたい事実や事柄と自分の考えや気持ちとを明確にして、目的や意図を意識しながら、決められた字数や構成で適切に書く指導を一層大切にする必要がある。

（３）物語の展開に注意して、場面の状況を正しく理解しながら読む力をみる問題の例（「読む能力」）

＜問題＞  の四

A～**C**には、二郎と夏生の会話文が入ります。あてはまる会話文を、**A**～**ウ**の中からそれぞれ一つずつ選び、符号で書きなさい。

A けっこう深いね

イ 二十メートルくらいだ。それより、糸、ふんづけなくてくれよ

ウ このへん、どれくらい深いのかしら？

＜結果＞ 正答率 91.4%（正答…**A**：**ウ** **B**：**イ** **C**：**A**）

＜分析＞

この設問は、物語の展開に注意して、場面の状況を正しく理解しながら読む力をみる問題である。本文中の二郎と夏生のどちらの会話文なのか、どの順序で会話がされると展開に即した文章になるかを正しく読み取れた生徒が多いことが分かる。また、文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解しながら読む力をみる問題も高い正答率となった。これらの結果から、昨年度と同様に、文章の展開に即して内容をとらえる力や、文章に表れているものの見方や考え方を理解する力は身に付いているといえる。

（４）小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

＜問題＞  の一の9、10

次の1～10の文中の _____ 線部について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

9 入り口をしめる。 10 船に乗って外国をタズねる。

＜結果＞ 正答率 「9」：84.5%（正答…閉） 「10」：53.6%（正答…訪）

＜分析＞

この設問は、小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。昨年度の正答率と比較すると概ね同様の結果となった。「9」に比べて「10」の正答率が低いのは、「訪」が日常生活において、改まった場合に用いられる表現であり、使用頻度が少ないためだと考えられる。誤答の例としては、「9」については「開」、「10」については「尋」と表記する生徒が多く、無解答もあった。学年別配当表に示される漢字の指導に当たっては、日常生活から社会生活へと広げ、漢字使用に対する生徒の関心・意欲を大切にしながら繰り返し指導する必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

（１）指導計画の工夫改善

・「話すこと・聞くこと」については、話し手の意図を考えながら話の内容を的確に聞き取る力を高

めるために、指導事項「ア 考えや意図」を意図的に位置付け、生徒の主体的・体験的な言語活動を大切にしながら継続的に指導できるよう、年間指導計画を改善する必要がある。

- ・「書くこと」については、図や資料をもとに、具体的な例や体験を交えて自分の考えと理由を決められた字数で書く力が身に付くよう、言語活動を工夫するなどして単元指導計画を改善する必要がある。また、年間を通して書く機会を多く設定するよう配慮する。
- ・「読むこと」については、文章中の語句の意味を正しく理解し、文章の構成・展開を正確にとらえる力や、内容の理解に役立てる力を高めるために、年間を通して、指導事項「ア 語句の意味や用法」及び「イ 構成や展開」を重点に位置付ける必要がある。また、読書に親しんだり、進んで調べたりする態度を養うために、学校図書館等との関連を図った単元を設定することにも配慮する。
- ・「言語事項」については、特に、書写指導に必要な授業時数を確保する。また、小学校までに学習した漢字が正しく書けるよう、それぞれの領域と言語事項との関連を密にした単元を、年間通して計画的に位置付けるよう配慮する。

（２）指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、自分の意見を明確にして構成を考えて話す力や、話し手の意図を考えながら聞き取る力を高める指導が大切である。そのために、全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を組み立てたり、効果的な構成やそれぞれのまとまりの役割を考えながら聞いたりするなどの指導が必要になる。また、生徒にとって必然性のある学習課題を設定し、主体的な言語活動が充実するよう、相手・目的意識等「五つの言語意識」を学習場面ごとに意識させ、自己評価や相互評価を確実に位置付けることなどに配慮する。
- ・「書くこと」については、伝えたいことや書こうとする中心を明確にして、適切な語句を用いて主述の整った文で書く力を高める指導が大切である。そのために、必要な情報を収集・選択し、具体的な事実から根拠を明らかにして、自分の考えをまとめられるようにする必要がある。また、決められた字数で書くことについても、改行や接続する語句、文意にふさわしい文末等の表現に留意しつつ、文章全体を見通しながら書くことが意識できるよう繰り返し指導し、生徒一人一人の書く力を丁寧に見届け、個の学習状況に応じて個別に指導していくことが必要である。
- ・「読むこと」については、文章の叙述に即して段落相互の関係や論の展開をとらえながら内容を正確に理解する力を身に付ける指導が大切である。そのために、部分ごとの詳細な読み取りに終始することなく、段落や場面が果たしている役割を関連させて読みとる指導が必要になる。また、文脈の中で働く言葉の意味を考えながら図表及びグラフ等の内容を正確に読み取り、内容に対する自分の考えをもつ力、書き手の主張に対して建設的に批評する力を育てる指導も大切にする。その際、学校図書館等の利用により様々な資料を取り扱い、話すことや書くこととの関連を図る言語活動を設定するなど、指導の工夫が必要である。
- ・「言語事項」については、語句や語彙等の理解を深め、単語の類別について理解する力を高める指導が大切である。また、漢字を書く力については、書写の指導とも関連させて、生徒の興味・関心を引き出しながら、意図的・計画的に繰り返し指導する必要がある。書写指導においては、行書の基礎的な書き方を理解して書く力を育てることに重点を置くことが大切である。

（３）学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・辞書類の活用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、日常の正しい言葉遣いについても配慮して言語環境を整えることが大切である。また、生徒が主体的に資料を活用しながら情報活用能力を高められるよう、学校図書館等の積極的な活用に配慮する。
- ・基本的な学習姿勢として、話し方、聞き方、話し合いの仕方について継続して指導するとともに、互いの考えや表現を認め合う中で伝え合うことの価値を理解し、温かさや厳しさのある人間関係を基盤に、共に学び合おうとする学習集団の育成に努める。
- ・学校での学習を振り返り、習熟が必要な内容や発展的な読書等、言語の力を身に付けるために取り組むとよいことを確かめ、学習習慣の確立に向けて家庭学習の充実を図るようにする。

